

# 戦争と医学 目次

序にかえて——戦争と医の倫理 .....	9
はじめに	9
1. 国際シンポジウム、パネル展示に至る経緯	10
(1) 第27回日本医学会総会に対する取り組み	10
(2) 27医総会后、「戦争と医の倫理」の検証を進める会の設立にいたる までの経緯	11
(3) 準備委員会における意見交換のまとめ	14
(4) 医総会を契機にする活動展開	16
(5) 進める会設立後	16
2. 国際シンポジウム・パネル展示の開催趣意	17
3. 国際シンポジウムでの演者同士の討論 (要旨)	23
4. 国際シンポジウムでの主な質疑応答	24
(1) 戦争医学犯罪の歴史検証問題	24
(2) 現代医学との関係	26
5. 国際シンポジウム、パネル展示後の動向	27
6. これからの課題と方向	28

## 第 I 部 15年戦争と医学界・医療界 33

---

1 戦前・戦中の日本産業衛生学会の活動と戦争責任 .....	35
—「1998年日本産業衛生学会メインシンポジウム」によせて—	
1. 序論	35
2. 方法	37
3. 結果	37
4. 考察	44

<b>2</b>	<b>日本衛生学会の日本の侵略戦争へのかかわり</b> .....	<b>52</b>
1.	はじめに	52
2.	日本衛生学会	52
3.	考察	56
<b>3</b>	<b>医学医療界の責任の構造</b> .....	<b>59</b>
1.	はじめに	59
2.	史実としての認知	60
3.	責任の規準	61
3.1	現代の規準に基づいた責任の検討	61
3.2	医学医療にかかわる罪	61
3.3	現代の戦争犯罪観	62
3.4	現代の医学医療の倫理観	63
4.	医学医療界の罪と戦争責任、戦争犯罪の一般論の枠組みとの関連	65
4.1	医学医療の領域の専門性の歴史	65
4.2	個人責任（指導者・部下の立場）	66
4.3	「15年戦争と日本の医学医療」に関する戦後の無反省（不作為、黙 認、抗弁、容認、支持）	67
5.	結語	68
<b>4</b>	<b>世界医師会総会準会員会議における日本医師会に対する 戦争責任の追及について</b> .....	<b>72</b>
<b>5</b>	<b>「日本医学会」と15年戦争</b> .....	<b>103</b>
1.	はじめに	103
2.	日本医学会の戦争協力	105
3.	第25回医学会総会における『日本医学会総会百年のあゆみ』 刊行の経緯	109
4.	『日本医学会総会百年のあゆみ』における史実の欠落と史観	110
5.	『日本医学会総会百年のあゆみ』における戦後の日本医学会	113

## 6 「15年戦争」への日本の医学医療の加担の解明について … 115

1. はじめに 115
2. 戦争期における日本の医学犯罪の史実 115
  - 2.1 731部隊、石井機関の医学犯罪 115
  - 2.2 石井機関以外の医学犯罪の史実 118
  - 2.3 日本の植民地医学医療 119
3. 日本の医学界と戦争期における医学犯罪の関係 122
  - 3.1 戦時下の学術研究体制 122
  - 3.2 戦時体制と日本医学会 123
  - 3.3 医学者・医局・医学部の軍陣医学研究への加担 123
  - 3.4 「国民医療法」の制定と日本医師会の戦争加担・医師の戦争動員体制 128
4. 米国、日本政府、日本医学界は戦後、医学犯罪に対してどのように対処してきたか 129
  - 4.1 731部隊の証拠の隠滅——「マルタ」の絶滅、隊員と家族の脱出 129
  - 4.2 米国による医学犯罪の免責 129
  - 4.3 731部隊をめぐる終戦時の裁判 130
  - 4.4 九州大学医学部生体解剖事件の戦後の追求 131
  - 4.5 日独医学界の検証と反省の相違 132
  - 4.6 医学犯罪の戦後日本医学界における「業績」としての評価 133
  - 4.7 日本学術会議での731部隊関係者の活動 134
  - 4.8 731部隊関係者によるミドリ十字設立と薬害 134
  - 4.9 人権抑圧のハンセン病患者隔離政策の継続 135
  - 4.10 日本の医学教育における医学犯罪の教育 135
  - 4.11 各医学会における戦争加担についての検討 135
  - 4.12 「医学犯罪」についての国会での論議 135
  - 4.13 「医学犯罪」についての司法の動き 136
  - 4.14 当事者の弁解、動機と「医学犯罪」の概念 137
5. 今日的な意義・課題 138
  - 5.1 国際的課題 138
  - 5.2 過去の悪行隠蔽の重荷を子孫に課さない責任 139

5.3	残されている研究課題	140
5.4	医師の戦争協力を拒否できなくする有事法制と憲法9条改悪との関連	140
5.5	日本の医学会・医師会の課題	141

## 7 医療倫理教育で医学者の戦争犯罪の事実はどう

教育されているか	147
----------	-----

—15年戦争への医学界の加担に対する反省を医療倫理教育に  
活かすために—

1. 目的	147
2. 対象と方法	148
3. 結果	149
4. 考察	152
5. 結語	156

## 8 「戦争と医の倫理」の検証の現段階について

1. はじめに	158
2. 進める会が掲げる「『戦争と医の倫理』の検証」の意味について	159
2.1 進める会の設立趣意書の文脈に見る「検証」	159
2.2 「実行委員会」の目的	159
2.3 各単語の意味	160
3. 進める会の課題、目指すもの	161
4. 「検証」の到達度の評価・判定の方法	163
5. 「戦争と医の倫理」の検証を進める意義	164
5.1 史実の共有	164
5.2 教訓	164
5.3 検証結果の認識のあり方・程度	164
5.4 現実・当面の問題として交戦、戦争参加に直面	166
5.5 国際的な友好・信頼関係の構築	166
5.6 今も被害を受けている人々・国々への対処	167
5.7 憲法9条の尊重擁護と全世界への普及	167

6. 進める会のまとまりの要	167
7. 研究会と進める会の関係	167

## 第Ⅱ部 731部隊関係者等の医学博士学位授与について 169

1 731部隊関係者等の京都大学医学部における博士論文の 検証.....	171
1. はじめに	171
2. 方法	173
3. 結果	174
3.1 主要な抽出情報	174
3.2 学位論文の有無、所在	176
3.3 学位論文DBの情報の不一致	177
3.4 受理論文の構成の概要	177
3.5 新たに所在が確認された論文	182
3.6 主要な抽出書誌情報	182
3.7 731部隊あるいは陸軍軍医学校防疫研究室の業績論文の提出者につ いて	183
4. 考察	188
5. 結論	197
2 731部隊関係者等の京都大学における医学博士の学位の 授与過程 .....	199
1. はじめに	199
2. 方法	199
3. 結果	200
3.1 授与記録の収蔵状況	200
3.2 主要な学位授与記録項目	201
3.3 主要な記録内容	202
3.4 調査書、意見書の内容と被添付者	203

3.5	論文要旨	210
3.6	論文目録	212
3.7	履歴書	212
4.	考察	213
4.1	調査対象について	213
4.2	教授会における審査について	213
4.3	調査書、意見書	214
4.4	学位授与者の学位申請時のバックグラウンド	215
4.5	履歴書情報の総合的検討	215
<b>3</b>	<b>金子順一、池田苗夫の医学博士の学位授与過程</b>	<b>218</b>
1.	はじめに	218
2.	金子順一の学位授与記録の翻刻結果と考察	218
2.1	学位記授与認可	219
2.2	学位授与認可申請	219
2.3	履歴書	220
2.4	履歴書（著者注：学位請求後）	221
2.5	論文目録	221
2.6	審査要旨・審査員・参考論文目録・略歴	222
2.7	調書	226
3.	池田苗夫の学位授与記録の翻刻結果と考察	226
3.1	学位授与認可原議書	226
3.2	学位授与認可名簿	227
3.3	学位授与認可依頼状	227
3.4	論文目録	228
3.5	池田苗夫 提出学位論文審査要旨	228
3.6	調書	230
3.7	人格、思想の調査並に意見書	230
3.8	論文目録	231
3.9	履歴書	233

## 第Ⅲ部 「戦争と医学」訪中調査

237

- |   |                                |     |
|---|--------------------------------|-----|
| 1 | 訪中調査による講話と聞き取り……………            | 239 |
|   | 第1次訪中調査（2004年4月18日～28日）        | 239 |
|   | 第2次訪中調査（2005年3月5日～13日）         | 285 |
|   | 第4次訪中調査（2006年8月28日～9月5日）       | 292 |
|   | 第5次訪中調査（2007年8月25日～9月6日）       | 300 |
|   | 第6次訪中調査（2008年9月17日～23日）        | 309 |
|   | 第7次訪中調査（2009年9月15日～24日）        | 312 |
|   | 第8次訪中調査（2010年9月2日～11日）         | 330 |
| 2 | 紹介：『日本侵華戦犯筆供』中央档案馆整理（中国档案出版社）… | 332 |
|   | 1. はじめに                        | 332 |
|   | 2. 書の構成                        | 335 |
|   | 3. 照合と抽出の結果                    | 336 |
|   | 4. おわりに                        | 353 |

## 第Ⅳ部 「戦争と医の倫理」の検証を進める活動

357

- |   |   |     |
|---|---|-----|
| 1 | 15年戦争をめぐる日本の医学医療界の責任を糾明する …                         | 359 |
| 2 | 第27回医学会総会出展「戦争と医学」展と国際シンポジウム<br>「戦争と医の倫理」を終えて …………… | 367 |
|   | 1. プロローグ  | 367 |
|   | 2. 第27回日本医学会総会への打診                                  | 368 |
|   | 3. 第27回医学会総会出展「戦争と医学」展実行委員会の発足                      | 370 |
|   | 4. 日本医学会総会会頭、企画展示委員会委員長への文書要請                       | 373 |
|   | 5. 日本医学会総会企画展示委員会委員長を訪問要請                           | 374 |

- 6. 日本医学会総会会頭を訪問要請 374
- 7. 医学会総会展示決定 376
- 8. 本番に向けてのダッシュ 377
- 9. 4年後は日本医学会自身で過去の検証と反省を 378

### 3 15年戦争と日本の医学医療研究会 10年史 ..... 384

- 1. はじめに 384
- 2. 研究会の草創期 384
- 3. 創立総会 386
- 4. 会誌発行の構想 387
- 5. 東京での例会の開催 387
- 6. 生命倫理学者の参加 388
- 7. 地方での例会開催 388
- 8. 東北支部の創立 389
- 9. 大学と戦争 389
- 10. 日中共同の調査研究の追及 390
- 11. 「戦争と医学」訪中調査 391
- 12. 陸軍軍医学校防疫研究報告 391
- 13. 国際シンポジウム 391
- 14. 文部科学省科学研究費補助金による研究 392
- 15. 大阪保険医協会、全国保険医団体連合会との協同 392
- 16. 日本医師会への要請 393
- 17. 第27回日本医学会総会出展実行委員会の発足 394
- 18. 第27回日本医学会総会出展実行委員会の長期的展望をもった組織への発展 395
- 19. ハンセン病 396
- 20. まとめ 397